

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士(公共政策)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	藤本 真央
指導教員氏名 生稲 史彦				
報告書題目				
水戸ホーリーホックの観客動員数増加施策に関する研究 (ホームタウン活動と地域住民を繋ぐキーパーソンに関する研究)				
報告書概要				
<p>本研究の目的は、水戸ホーリーホックのホームタウン活動におけるキーパーソンをパーソナリティに着目しながら特定し、キーパーソンがどういった役割を担っているのかを明らかにすること、および得られた知見をもとに、水戸ホーリーホックの観戦者数増加につながる提案を行うことである。水戸市内の商店街において、キーパーソンとしての役割を担っている 3 名を対象として、①水戸ホーリーホック関連のイベント（企画）について、②水戸ホーリーホックと関連がない地域活動について、③回答者自身について、の 3 つの質問項目を中心に半構造化インタビューを行った。実施したインタビュー結果を「水戸ホーリーホックと商店街のつながりときっかけ」、「水戸ホーリーホックとのつながりの中での役割」、「水戸ホーリーホックとの係わりで生じた地域の変化」、「日常的な地域活動」、「回答者自身について」、「課題」の 6 つのカテゴリーに分け、ケース間の比較分析を行った。本研究によって、キーパーソンは、ホームタウン活動に限らず、地域内の水戸ホーリーホックに関わる部分において包括的な役割を担っていることが明らかになった。また、一般的な地域活動のオピニオン・リーダーと同様、個人の属性的な特徴よりも、社会ネットワーク上でのつながりによってキーパーソンが特定されることが明らかになった。一方で、地域愛着や役割の面では、一般的な地域活動のオピニオン・リーダーとの共通点も見られた。また、共通の課題として、年齢による関心の差を感じていることが明らかになった。以上の得られた知見から、将来のキーパーソンの発見につながる、①ホームタウンの市町村における商店街担当課との連携強化と、年齢による関心の差を解決するための、②高齢層向けホームタウン活動の開催の 2 点の提案を行った。</p> <p>今後の課題として、本研究で得られた結果を参考にアンケート質問票を作成し、水戸ホーリーホックと関わりのある人物にアンケート調査による定量的な分析を行い、本研究の結果をより一般化する必要があると考える。</p>				
審査日	平成 27 年 1 月 26 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(商学)	岡田 幸彦	
副査	筑波大学 講師	博士(コンピュータ理工学)	有馬 澄佳	
副査	筑波大学 准教授	博士(経済学)	生稲 史彦	